

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

母親の自閉症傾向は子どもへの愛着形成に影響するか？

和文タイトル:

母親の自閉症傾向は子どもへの愛着形成に影響するか？

ユニットセンター(UC)等名: 大阪UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 臨床婦人科産科

年: 2020 月: 5

巻: 74

頁: 445-450

筆頭著者名: 廣川空美

所属UC名: 大阪UC

目的:

母親の自閉症傾向が子どもへの愛着形成に影響するかどうか、エコチル調査の結果を紹介し、考察する。

方法:

子どもへの愛着形成に及ぼす心理的要因をレビューし、その1つとして性格特性に焦点を当てる。性格特性の1つとして、エコチル調査データで用いた自閉症傾向と子どもへの愛着形成との関連についての結果を紹介した。

結果:

エコチル調査データからは、母親の自閉症傾向の得点が高いほど産後うつ状態になるリスクが高く、子どもへの愛着も形成されにくいことが示された。自閉症傾向の特性の中でも、「想像力のなさ」が子どもへの愛着の形成を阻害しており、産後うつ状態の母親においては、さらに子どもへの愛着形成を阻害する可能性を高めることが示された。

考察:(研究の限界を含める)

自閉症傾向の高い母親については、妊娠初期から産後うつ症状のスクリーニングを行うなど、医療的なケアの介入が求められる場合があるのではないかとと思われる。一方、メンタルヘルスが健常な母親においては、「社会的スキルのなさ」や「コミュニケーション力のなさ」によってより子どもへの愛着形成が阻害される可能性が高くなることも示唆されており、自閉症傾向の高い母親への早期からのサポートが求められる。

結論:

自閉症傾向の高い母親には早期に社会的スキル訓練や、子育て支援などの自治体や公的機関による育児サポートが必要であると考えられる。